

平成27年度八代市医師会事業報告

新しい八代市医師会館の建設に向け、平成27年3月の平成26年度八代市医師会臨時総会で八代市医師会会館維持管理費徴収規程に関する承認が得られ、これに伴い、平成27年4月1日より医師会館の修繕費及び建て替え費用に充てるための会館維持管理費の徴収が始まり、その後八代市医師会館建設準備委員会では、今後の医師会館建設方針（案）についての検討が重ねられ、1)准看護師課程併設の医師会館とし、敷地内に新築移転する。2)着工時期は、東京オリンピック後の2021年を目指す。3)建設資金は、会館維持管理費・准看護師施設整備費・公的補助金・借入金を予定する。の内容が八代市医師会館建設準備委員会の総意として、平成28年3月14日の3月理事会の承認を経て、3月31日の平成27年度八代市医師会臨時総会で承認が得られた。

地域医療構想では、2025年に向けた病床の機能分化・連携を推進するために、医療機能ごとの医療需要（推計入院患者数）と病床の必要量（必要病床数）などのデータを活用し、八代医療圏におけるバランスのとれた地域医療構想を策定するために、八代地域医療構想検討専門部会が2回開催され、地域の実情や医療ニーズなどを踏まえた議論を医師会として行った。

地域包括ケアシステムの構築では、医療・介護・予防・住まい・生活支援を多職種が協働してシームレスに提供する施策が求められており、平成27年9月に八代郡医師会との意見交換の場を設け、2つの医師会が協働して同じ方向性の考えを持ちながら、地域包括ケアシステムの構築に取り組むことを確認、10月には、八代地域における地域包括ケアシステム構築に向けた「八代市（市長・副市長・担当部課長）・氷川町（町長・副町長・担当課長）・八代郡医師会（会長・副会長・関係理事）・八代市医師会（会長・副会長・関係理事）」合同協議会を開催し、八代地域における地域包括ケアシステム構築の核となるべき「八代地域医療介護連携支援センター（仮称）」を八代市・氷川町・八代郡医師会・八代市医師会の4者が協働して、平成30年4月稼働を目指し設置するプロジェクトの合意形成に至った。また、「八代地域医療介護連携支援センター（仮称）」のサテライト的な機能を持ち得るサポートセンター（仮称）を八代地域の北部地区と南部地区に設置する構想では、八代市医師会立病院が南部地区を担当する検討が進められている。

平成27年度、八代市医師会の大きな流れは以上であるが、以下は各事業部門の主たる事業について報告する。

《医師会事務局》

1) 公衆衛生向上及び社会福祉増進を図る事業（地域保健・学校保健・母体保護・産業保健・福祉医療） 2) 医道の高揚・医学医術の発展普及を図る事業 3) 会員相互扶助事業の業務がある。特に福祉医療では、八代地域医療介護連携支援センター（仮称）及びサポートセンター（仮称）設置構想に伴い、八代地域在宅医療介護支援プロジェクト会議（八代市・氷川町・八代郡医師会・八代市医師会）において、予算・事業計画なども含めた検討が重ねられた。

また、地域保健では、八代地域における地域医療構想策定に伴う、八代地域医療構想検討部会で現況の医療資源を十分把握しながら、医療機関並びに市民への有用な施策が講じられる検討を行った。

《看護学校》

在学生のための看護師育成奨学金貸与制度の定着に伴い、就学支援体制の整備が図られ、看護師国家試験及び准看護師検定試験では、常に県内トップクラスの合格率を堅持し、准看護師課程では、八代地域の医療・保健・福祉などの分野で専門性を活かし従事する卒業生の地元定着率が県内最高ランクの評価を得た。

また、第48回中四九地区医師会看護学校協議会（平成29年度）は当番校となることから学内に準備委員会を立ち上げ開催に向けた検討を重ねている。

《健診検査センター》

胸部デジタル検診車の新規整備、所内等のX線装置のデジタル化、健診システム・検査システムの更新、自動分析装置及び自動血球分析装置の機器更新の完了に伴い、地域・職域での各種健診やがん検診の実施、質の高い精度管理の基での緊急及び24時間対応の検体検査など健診業務・検査業務それぞれがあらゆるニーズに迅速に適確に応え得る更なる体制整備に努めた。

《訪問看護ステーション》

八代地域における地域包括ケアシステムの構築に向けた訪問看護ステーションの重要性と医療・保健・福祉・介護など、多職種のリーダー的存在としての体制整備が進められた。

また、医療的な立場から在宅介護支援及び訪問看護を一体的に対応し得る体制を保持し、特に医療依存度が高いケースを重点的に対応している。

《医師会病院》

入院平均稼働率及び外来患者利用数は、安定して推移しており、医師及びスタッフの専門性を活かした、主に小学生を対象とした小児リハビリテーションが行政との連携も含め定着し、更なる充実のためのスタッフ増員も図られた。医師会立共同利用施設として、病診・病病・多職種連携なども含めた中心的立場としての位置付けが図られている。

《夜間急患センター》

延べ人数3,368名（内科545名・小児科2,731名・外科77名・整形外科15名）1日当たりの平均患者数9.38名の利用状況である。感染性胃腸炎やインフルエンザ流行期における看護師の増員・配置計画も事前に整備され、利用者のニーズに十分対応できる体制が整備された。